

Japanese Rice Challenges into the Asian Food Market



**グローバル社会における日本農業
「海外現地精米による日本産米の需要拡大」**

**株式会社クボタ
アグリソリューション推進部
新規事業推進室**

目次

1. クボタ日本産米輸出事業の意義
2. 世界のコメ生産と日本の状況
3. 海外コメ市場分析(香港・シンガポール)
4. クボタ日本産米輸出事業の概要
5. 日本産米輸出実績
6. 需要フロンティアの拡大
7. 令和3年産の輸出米集荷に関して



クボタトラクターM7シリーズ

1.日本産米輸出事業の意義

意義

クボタ・グループの総合力を生かしたすぐれた製品・技術・サービスを通じて、社会の発展や豊かな暮らしを永遠に支えて行く事。

目的

海外において日本産米の輸入・精米・販売会社を設立し、日本産米の海外販路の拡大を行い、輸出量増大を図り日本の農業支援ならびに発展に貢献する事。

手段

日本から輸入した玄米を海外で精米・販売する事で、安全・新鮮・安定的な供給体制を確立するだけでなく、業務用自動洗米炊飯器などを用いて、高い品質の日本米が提供できるサービスを提案し、日本産米の消費量拡大に努めていく。

お米のトータルソリューションを提案します(土作りから炊飯まで)



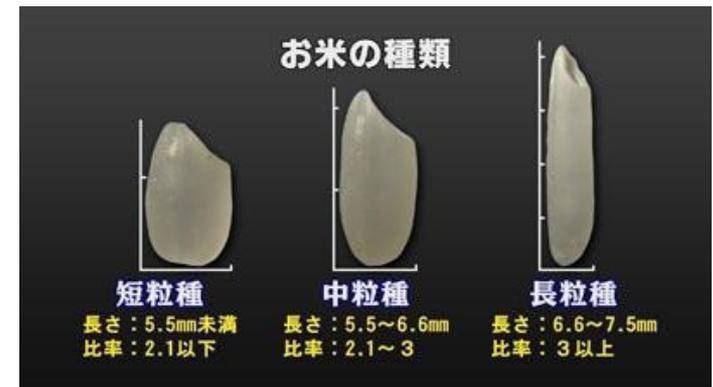
2-1. 世界の米生産量

＜世界の米生産量＞
年間約4億8,000万トンが生産されている

順位	国	生産量(t)	割合
1位	中国	1億4,450万	30%
2位	インド	1億 480万	22%
3位	インドネシア	3,576万	7%
4位	バングラデシュ	3,450万	7%
5位	ベトナム	2,807万	6%
	⋮		
10位	日本	782万	1.6%

出典：(日本数値)平成26年度「食料需給表」、(その他国・地域)米国農務省「PS&D」

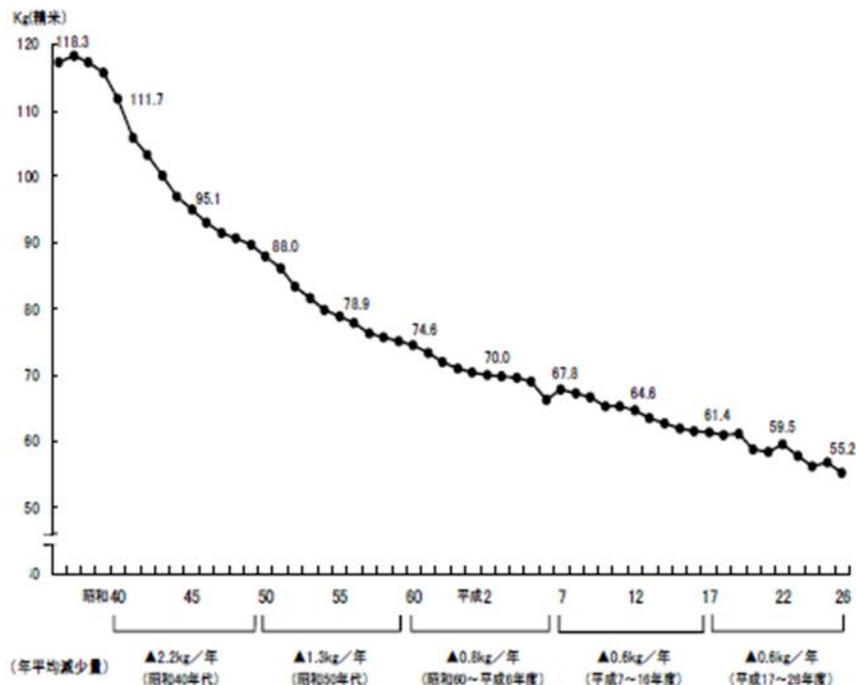
＜世界の米の種類と生産地＞



2-2. 日本の米生産の現状

- 米の1人当たりの年間消費量は、昭和37年度をピークに一貫して減少傾向にある。具体的には、37年度には118kgの米を消費していたのが、平成26年度には、その半分程度の55kgにまで減少している。
- また、米の全国ベースでの需要量は毎年約8万トンずつの減少傾向にある。

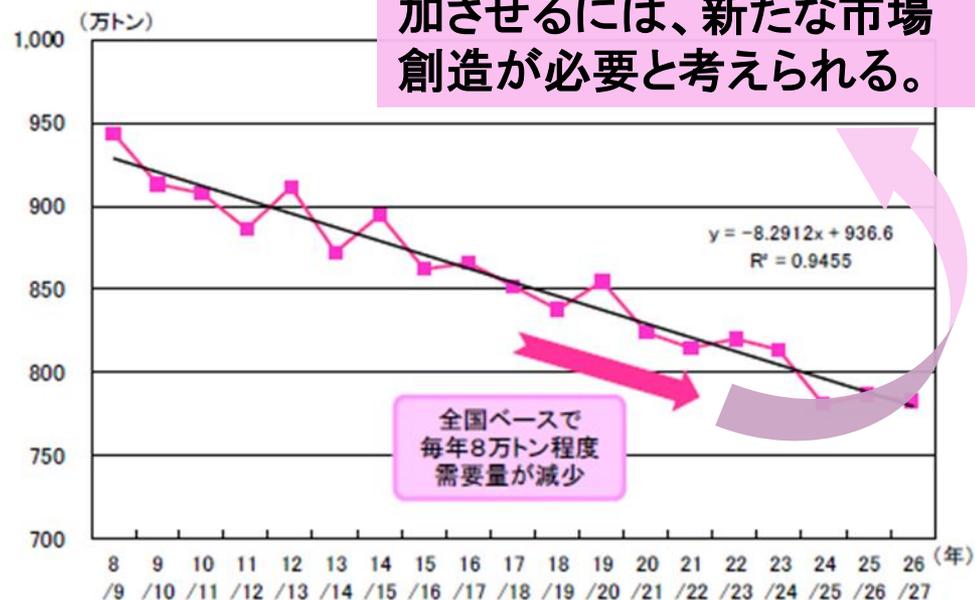
○ 米の年間1人当たり消費量の推移



資料: 農林水産省「食料需給表」

注: 1人1年あたり供給純食料の値

○ 米の需要量の推移

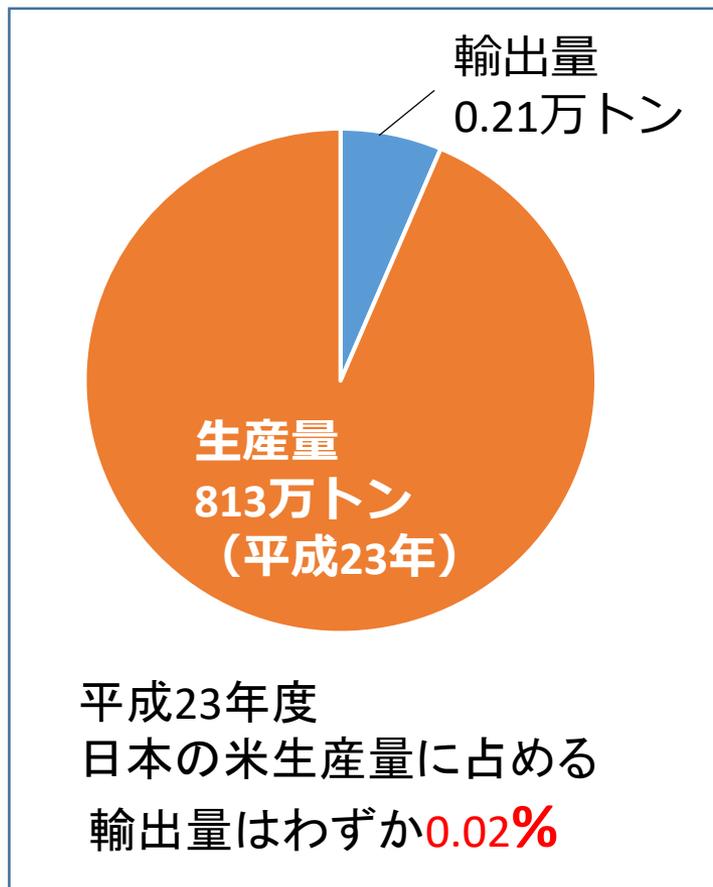


日本国内だけでは需要の拡大は厳しい。需要量を増加させるには、新たな市場創造が必要と考えられる。

資料: 農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

2-3. 平成23年度の輸出米の状況

<平成23年の米生産量と輸出量>



<何故、輸出量が少ないのか？>

輸出先国の現地調査で意外な事実が判明した。

現地需要者からの声は、

「日本産米は、高くて、まずい」

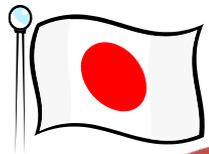
「供給が不安定で使いづらい」

「炊飯行程が複雑すぎる」

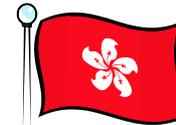
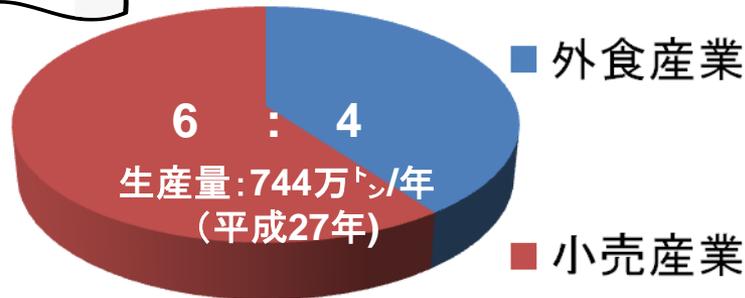
これらの問題を解決する事で、海外での日本産米の需要を拡大できるのではないかと、考えて輸出事業の取り組みを開始した。

3. 海外コメ市場分析

3-1. 市場性の違いを見極める



日本



香港



シンガポール



規模

- 年間生産量744万ト
- 減反による生産調整

比率

- **家庭内消費 約6割**
- 外食産業 約4割

市場性

- 小売販売の比率が高い
- 外国産米の比率は低い

家庭内消費拡大への施策が必要
・ブランド、食味、広告、小売販路

規模

- 年間輸入量約60万ト(2カ国計)
- 100%輸入国

比率

- 家庭内消費 約1割
- **外食産業 約9割**

市場性

- 外食産業の比率が高い
- 日本産米の比率は低い

外食産業(業務米)向け拡大施策が必要
・価格、品質、供給体制

3. 海外コメ市場分析

3-2. 精米輸出の問題点を確認

精米輸出の問題点

精米品の輸出

- ・日本国内で精米されたコメが輸出される。
- ・殆どが日本国内仕様の梱包規格。
- ・現地にて※規定ラベルの添付が必要。

DRY(常温)コンテナ輸送

- ・コンテナ内は常温となり劣化が進行
- ・現地到着まで3~4週間を要する
- ・混載の場合、米に臭いが移りやすい

常温倉庫保管

- ・高温・多湿により品質劣化が著しい
- ・半年以上も現地倉庫で在庫となっていた
- ・虫害・変色によるクレーム発生

最終需要者に届く頃には……

- ・**精米後3ヶ月以上経過(平均値)**
- ・**乾燥・変色品等の劣化**
- ・**炊飯後も美味しくない**
- ・**クレーム返品を加味した価格設定**



「日本産米は、高くてまずい。」

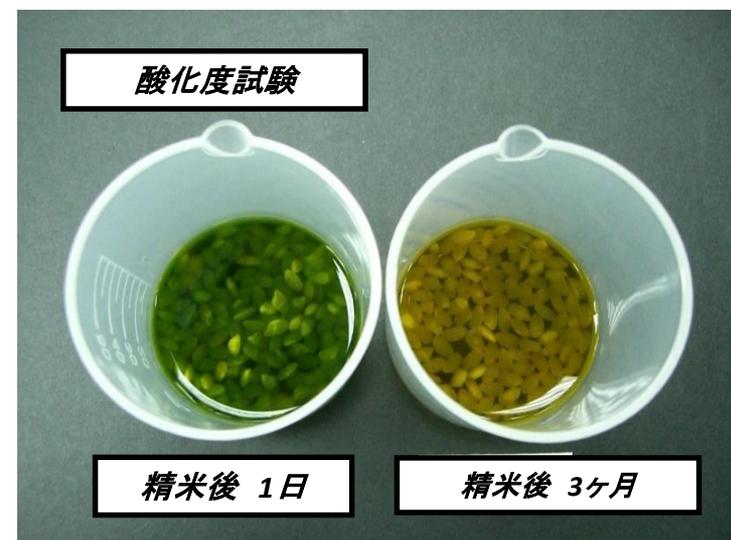
日本産米は生鮮食品

日本産米は他国産米と比較して、水分量が多い。精米後時間が経つと、タンパク質の酸化や水分が蒸発するなどの劣化が進行し、品質問題が発生する。



日本国内市場において、大手スーパーでは納品できるのは「精米日から3日以内の商品」、「精米後1ヶ月経った商品は返品対象」など、商品管理を徹底し、品質の劣化を防止している。

※各国で定められた、賞味期限、成分、販売者等の表示ラベル



3. 海外コメ市場分析

3-3. 需要者の声

更に需要者から聞こえて来る声は……

供給を安定して欲しい

大手日本食チェーン店(香港内5店舗)

- ・商社が品種Aを売込み
- ・味・品質・価格が気に入り採用
- ・5店舗の炊飯条件を合わせ込んだ
- ・半年後に品種Aの品質が低下
- ・商社に連絡すると、品種Bを勧められた
- ・しょうがないので品種Bを改めて採用
- ・5店舗の炊飯条件を合わせ直した
- ・半年後に同じ事が発生した



本来は気に入っている品種Aを使い続けた
いが、**現地商社で一年分の在庫を確保**させ
ると、劣化が激しく問題となる。

炊飯方法が複雑すぎる

大手カレーチェーン店(香港7店舗)

- ・海外進出1号店を香港に決めて出店
- ・現地スタッフの炊飯は「目分量」であった
- ・「計る」「研ぐ」「浸す」「蒸らす」を教えた
- ・**炊飯が出来る様になると転職してしまった**
- ・大型店舗は、1日60Kgの精米を必要とする
- ・人件費も高騰しており、人手不足



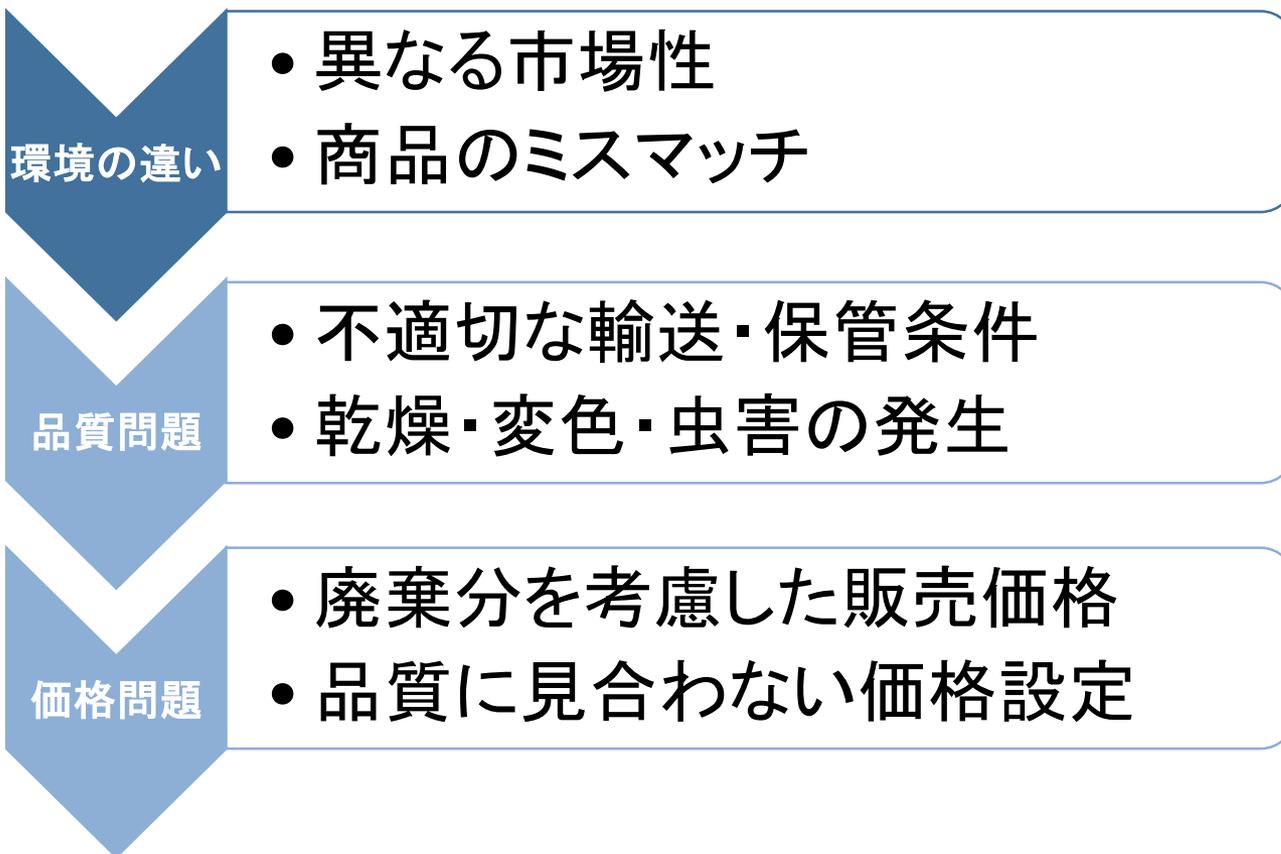
高い日本産米を使用しても、**日本特有の**
「計る」「研ぐ」「浸す」「蒸らす」と言った複雑
な炊飯方法を現地スタッフに教え込むのは
難しい。

海外現地では、日本では考えられない様な問題や課題が存在している。

3. 海外コメ市場分析

3-4. 問題点の解析

輸出先国で市場調査を行う事で、輸出が促進されない**原因が判明**して来た。



これらの**問題に対策を打つ事**で、顧客の満足度を上げ、輸出が促進されるのではないかと考え、クボタの強みを生かし日本産米輸出を促進させる新たな事業企画を開始した。

3. 市場分析

3-5. 対策立案(事業内容策定)

新事業の内容

市場対策

- 現地の販売会社を設立し、販売まで責任を負う
- 需要の大きい業務向けに特化した販売戦略を取る
- 梱包材等も簡素な物を使用しコストダウンを図る

品質対策

- 物流を根本的に見直し、新しいサプライチェーンを構築する
- 玄米輸出、現地精米を行う事で品質向上を目指す
- 保冷コンテナ使用、自社保冷库を建設、品質劣化を防ぐ

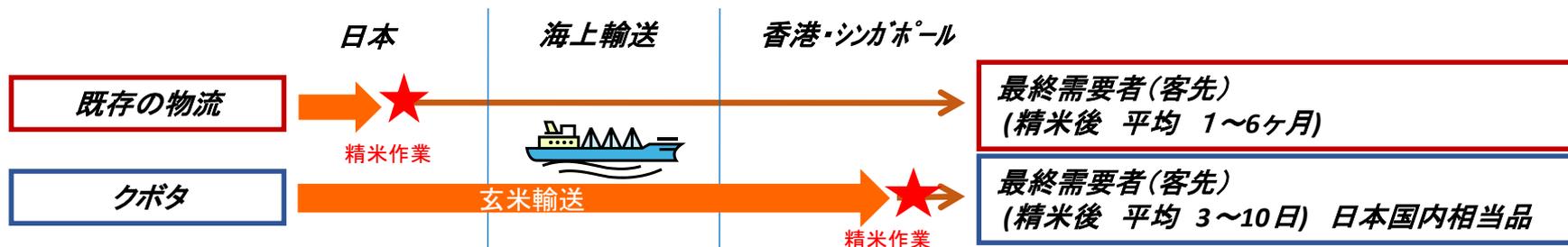
供給・炊飯対策

- 現地保冷倉庫で玄米在庫を持ち、安定供給を行う
- 厨房機器等の提案を行い、炊飯状態までの提案を行う
- 各国の食品流通法令を理解・遵守し、供給を滞らせない

市場調査を重ね、原因を追究し、見出した課題への対策を検討する事で、**新しいビジネスの形が見えて来た。**

具体化された、海外における「日本産米の現地精米販売会社」は、**2011年11月香港に設立された**

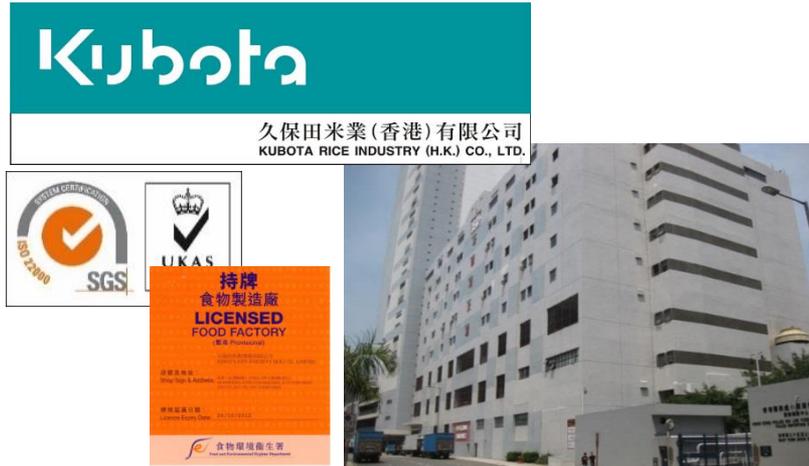
現地精米の優位点



4 クボタ日本産米輸出事業の概要

4-1 海外現地販売会社概要

<香港>



会社名	久保田米業(香港)有限公司
設立日	平成23年10月27日 (事業開始平成24年4月)
住所	4F.,EVER GAIN BLDG.,21-23 YUEN SHUN CIRCUIT SHATIN, N.T., HONG KONG
資本金	HK\$1,800万(約2億5千万円) ※HK\$1=14.0円
出資	㈱クボタ 100%
総経理(社長)	久保 力
従業員数	9名(日本人1名、香港人7名、台湾人1名)

<シンガポール>



会社名	KUBOTA RICE INDUSTRY (SGP) PTE.LTD.
設立日	平成25年7月27日 (事業開始平成25年12月)
住所	1 SENOKO AVENUE #01-04 FOODAXIS Singapore 758297
資本金	SGP\$600万(約4億9千万円) ※SGP\$1=81.5円
出資	㈱クボタ 100%
総経理(社長)	宮内 健州
従業員数	10名(日本人1名、シンガポール人6名、マレーシア人3名)

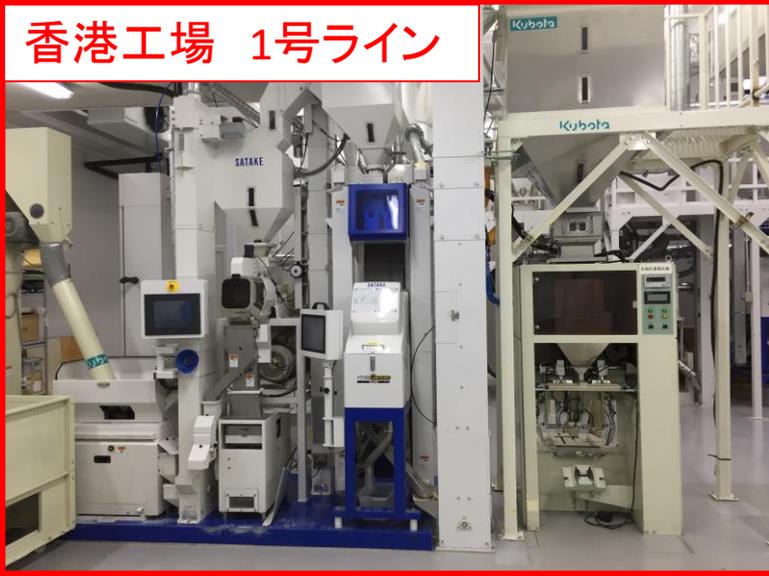
海外は日本と同じ条件ではない ➡ 各国で必要な許認可(輸入・保管・食品加工ライセンス)

4 クボタ日本産米輸出事業の概要

4-2 導入機器(精米設備)

For Earth, For Life
Kubota

香港工場 1号ライン



香港工場 2号ライン



- 導入設備
- ・玄米保冷倉庫
 - ・自動張込機
 - ・石抜機
 - ・研削機
 - ・精米機
 - ・精選機(シフター)
 - ・色彩選別機
 - ・金属探知機
 - ・自動計量機
 - ・自動梱包機

シンガポール工場



香港工場

7.5馬力精米ユニット
能力:約1,000トン/年
(8時間稼動/日)

+

15馬力精米ユニット
能力:約2,000トン/年

シンガポール工場
15馬力精米ユニット
能力:約2,000トン/年
(8時間稼動/日)



2021年度 香港・シンガポールに
精米ラインの増設を計画中。

4 クボタ日本産米輸出事業の概要

4-3 導入機器(玄米保冷倉庫)

香港工場



シンガポール工場



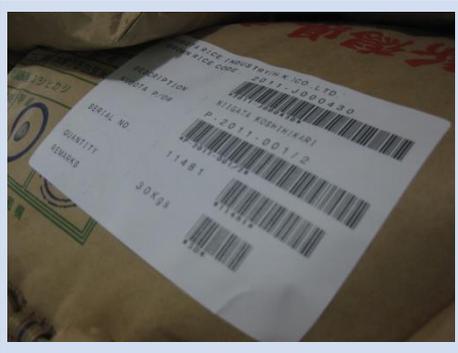
自社玄米保冷倉庫
日本品質の確保

高温多湿のアジアでは、年間を通して玄米も自社保冷倉庫で保管。
日本からの玄米輸送は保冷コンテナを使用し、輸送中の品質劣化を防止。
日本国内と同じ条件で保管する事で、日本品質を実現。

4 クボタ日本産米輸出事業の概要

4-4 導入機器(在庫管理システム)

バーコードによる在庫管理システム

日本出荷	倉庫受入	精米指示	精米在庫
			
<p>日本国内出荷時に指定の玄米ラベルを貼付(玄米袋)</p>	<p>受入時に一袋毎にバーコードを読み取りデータベース化</p>	<p>精米指示書に基づき投入玄米LotNo.をバーコードで確認</p>	<p>精米製品に精米Lot.No.が印字されたラベルを添付</p>

バーコードシステムによる管理コンセプト

トレサビリティの確保	→ 安心・安全の証明	→ ※ISO22000取得	→ 国際標準化
作業事故対策	→ 目視確認の排除	→ システムによるLot確認	→ 誤Lot投入の防止
在庫管理の徹底	→ 在庫年齢管理	→ システムによる先入先出し	→ 不良在庫削減



ISO22000:2005認証取得

食品安全マネジメントシステムの国際規格
GAP、HACCP製品の加工・販売も認められる
※香港のみ取得

相乗効果

4 クボタ日本産米輸出事業の概要

4-5 導入機器(検査機器)

白度計



食味計



穀粒判定器



重金属測定器



「安全」・「安心」・
「美味しさ」を数値化

放射能測定器



全ロット検査

データ保管

4 Kubota 日本產米輸出事業の概要

4-6 導入機器 (厨房機器)

For Earth, For Life
Kubota

美味しく食べて
もらう努力を惜
しまない。

日本の炊飯文化は特徴的であり、「計る」「研ぐ」「浸す」「蒸らす」と言った炊飯作業を正しく伝える事は難しい。



業務販売向けには全自動洗米炊飯機や酢合わせ機など厨房機器の提案を行い、炊飯品質向上による需要拡大に努めている。

ライスホブ



全自動洗米炊飯機

洗米ホブ



自動洗米機

シャリホブ



自動酢合わせ機

一般消費者向けパンフレット

炊飯の仕方 (広東語)



美味的日本米飯烹調方法

- 1. 準確量米**
先將一磅好米用水淘淨(在行機器的「淨米」)。用電氣秤或廚房磅秤量出淨米重量。每磅(1斤)淨米淨重量是1195.850g(約1000g)。
- 2. 一洗米! 洗米一take過!**
一般級日本米需要清洗1~4次。每次洗米時將米放入專用篩式內桶(機器的「洗米」)，所以只需1次即可。洗米後，瀝乾水份。
- 3. 調節好水的份量**
機器的「調節水量」的份量，一般級米是每磅淨米淨重量，即可加入1.5公升水。但為新米淨米淨重量，則需加入1.8公升水。如要煮軟飯，可以加入一些水。
- 4. 記錄吸水**
煮飯之前，必須將米粒先洗淨(機器的「淨米」)。在洗淨的米中加入淨米淨重量30分鐘，即可將米粒先洗淨。以好米淨米淨重量，則需加入1.8公升水。如要煮軟飯，可以加入一些水。
- 5. 開始煮飯**
當機器的「調節水量」的份量已調節好，即可將米放入內桶(機器的「淨米」)，再打開機蓋，將水倒出，這樣便完成「淨米」的準備。
- 6. 妥善保存**
米粒質地在煮飯時，在機器的蒸籠內米粒會吸收水份，在機器的蒸籠內，米粒會吸收水份。米粒質地在煮飯時，在機器的蒸籠內，米粒會吸收水份。米粒質地在煮飯時，在機器的蒸籠內，米粒會吸收水份。

歡迎網上訂購 otentprime.com.hk

可指定運貨日期及時間
全港各區統一收貨

5 日本産米輸出実績

5-1 クボタ・グループ輸出国別輸出货量実績

失敗を恐れずに新しい事に取り組み、
輸出货量を拡大する事が出来た。

商業用の米輸出货量推移

UNIT:トン

日本産米輸出货量推移		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 1~10月
世界輸出货量	合計	2,129	2,202	3,121	4,516	7,640	9,986	11,841	13,794	17,381	15,468
	香港	779	916	1,207	1,774	2,519	3,342	4,128	4,690	5,436	5,631
	シンガポール	598	668	961	1,295	1,850	2,350	2,861	3,161	3,879	2,949
	台湾	183	154	168	407	753	910	943	1,173	1,262	1,433
	中国	0	34	46	157	568	375	298	524	1,007	769
	アメリカ	46	29	91	81	322	812	986	1,282	1,980	1,571
	モンゴル	4	7	73	51	134	198	203	336	315	231
	ベトナム	1	3	16	4	142	74	101	118	213	103
	タイ	13	19	21	43	208	395	192	320	578	469
	その他	518	391	559	747	1,352	1,925	2,321	2,190	2,711	2,312

クボタグループ輸出货量推移		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年 1~10月
クボタ輸出货量	全体	0	40	403	931	1,684	2,504	3,454	4,073	4,493	3,123
	香港	0	40	300	610	830	1,156	1,731	2,000	2,177	1,435
	シンガポール	0	0	30	270	720	1,150	1,516	1,746	2,030	1,472
	モンゴル	0	0	73	51	134	198	198	324	286	216
	ベトナム	0	0	0	0	0	0	9	3	0	0

モンゴル・ベトナムは(株)新潟クボタ様管轄地域

更新:2020年12月1日

6 需要フロンティアの拡大

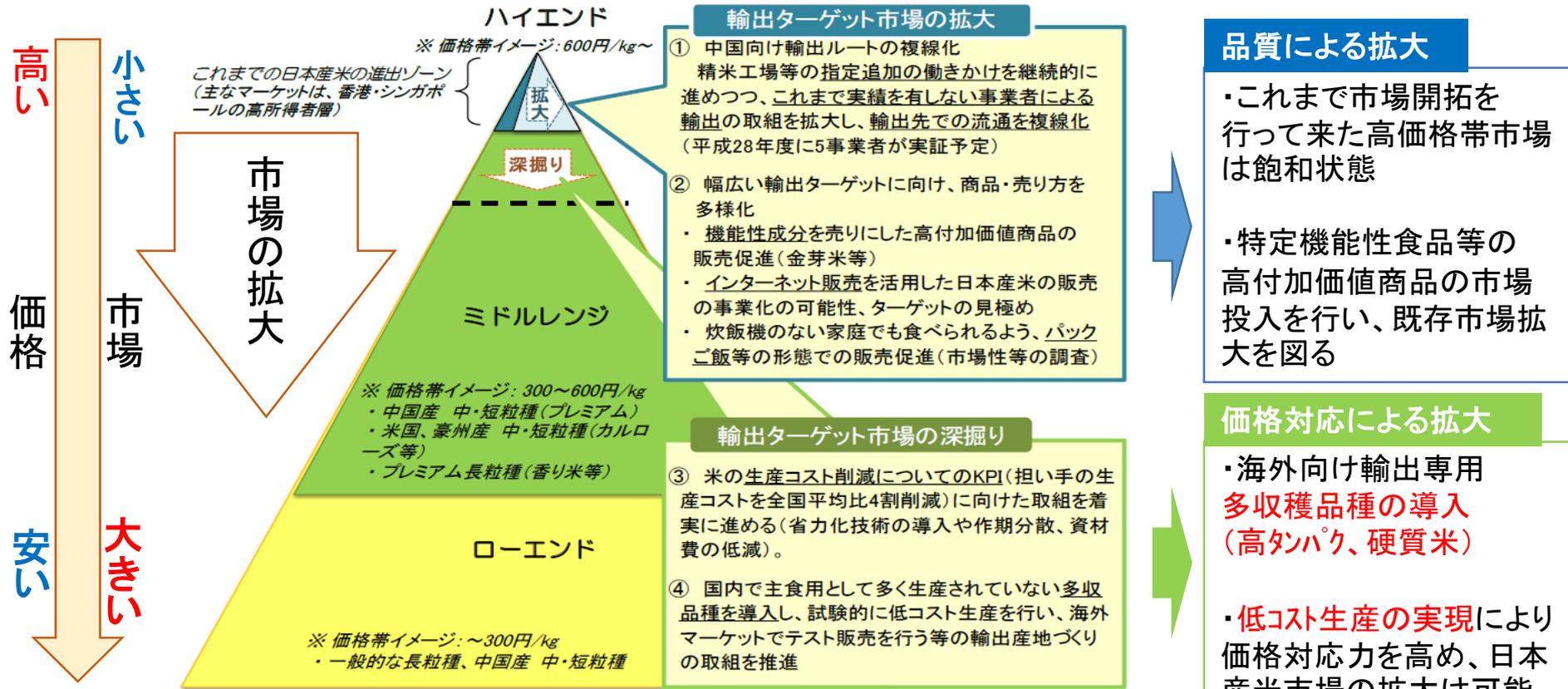
6-1 市場の見極め

香港・シンガポールの日本産米シェアは1.6%以下 需要フロンティア拡大の可能性は高い

平成28年農林水産省 輸出強化戦略 米の輸出強化に向けた対応方向

(品目名)コメ

海外マーケットにおける日本産米の位置付け及び対応方針(イメージ)



年間米消費量: 香港 約35万ト、シンガポール 約25万ト、合計約60万ト

6 需要フロンティアの拡大

6-2 平成30年より新しい交付金制度の開始

水田活用の直接支払交付金

【令和2年度予算額 305,000 (296,079) 百万円】

<対策のポイント>

米政策改革の定着に向け、食料自給率・自給力の向上に資する飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の本作化とともに、産地交付金により、地域の特色ある魅力的な産品による産地の創造を支援します。また、高収益作物の導入・定着を促進するため、水田農業高収益化推進助成を新設し、支援します。

<政策目標>

- 飼料用米、米粉用米の生産を拡大（飼料用米110万トン、米粉用米10万トン [令和7年度まで]）
- 飼料自給率の向上（40% [令和7年度まで]）
- 担い手の飼料用米の生産コストを10年間で5割程度削減 [令和7年度まで]
- 麦・大豆等の作付面積を拡大（麦28.1万ha、大豆15万ha [令和7年度まで]）

※（）内は令和元年度補正予算額

<事業の内容>

1. 戦略作物助成

- 水田を活用して、麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米を生産する農業者を支援します。

2. 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します（一定割合以上は都道府県段階で支援内容を決定）。

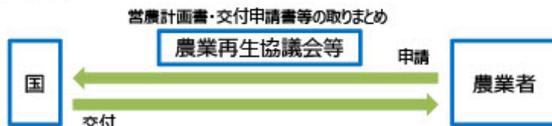
3. 水田農業高収益化推進助成

- 都道府県が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき、国のみならず地方公共団体等の関係部局が連携し、基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路確保等の取組と併せて、水田での高収益作物への転換等を計画的かつ一体的に推進します。

交付対象者

販売目的で対象作物を生産する販売農家・集落営農

<事業の流れ>



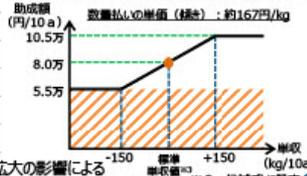
【お問い合わせ先】 政策統括官付穀物課 (03-3597-0191)

<事業イメージ>

戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物※1	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米※2	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米※2	収量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a

<飼料用米・米粉用米の収量と交付単価の関係>



産地交付金

- 「水田フル活用ビジョン」に基づき、地域の裁量で産地づくりに向けた取組を支援します。
- また、取組に応じた配分（下表参照）を都道府県に対して行います。

取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米の複数年契約※4	1.2万円/10a
そば、なたねの作付け（基幹作のみ）	2.0万円/10a
新市場開拓用米の作付け（基幹作のみ）※5	2.0万円/10a

※4：3年以上の契約
 ※5：輸出处向け日本酒の原料用の酒造好適米を含む

上記のほか、以下の取組について、拡大計画に基づき、年度当初に配分を行います。

- ① 転換作物拡大加算（1.5万円/10a）
地域農業再生協議会ごとに見て、主食用米が減少し、転換作物の面積が令和元年度より拡大した場合に、その面積に応じて配分。
- ② 高収益作物等拡大加算（3.0万円/10a）
地域農業再生協議会ごとに見て、主食用米が減少し、高収益作物等※6の面積が令和元年度より拡大した場合に、その面積に応じて配分。

水田農業高収益化推進助成

- 「推進計画」に位置付けられた産地における以下の取組を支援します。
- ① 高収益作物定着促進支援（2.0万円/10a×5年間）
高収益作物の新たな導入面積に応じて支援。（②とセット）
- ② 高収益作物畑地化支援（10.5万円/10a）高収益作物による畑地化の取組を支援※7。
- ③ 子実用とうもろこし支援（1.0万円/10a）子実用とうもろこしの作付面積に応じて支援。

※7：その他の転作物に係る畑地化も同様の単価で支援

平成30年産より「コメの新市場開拓」のために作付されるコメに対し、**2.0万円/10a**の交付開始。

コメの**新市場（輸出含）拡大**のため、国が積極的に支援する方向

補助金制度は永遠に継続する物ではない→交付期間中に生産改革が必要

6 需要フロンティアの拡大

6-3 マーケット・インへの変革

世界には大きな日本産米の市場が広がっている。

しかし、他国で生産された安価な短粒種米との価格競争がある事も事実である。

日本農業は変革期を迎えており、

「作った物をどうやって売るか？」=**プロダクト・アウト** から

「誰に、いつ頃、どんな製品を、どれだけ、幾らで売る為に、

生産コストを幾らにするのか？」=**マーケット・イン** への変革が求められる。

需要拡大とは、製造・販売側の理屈ではなく、**購買側の要求を満たす事**である。

=**お客様第一主義・顧客満足度の向上**が重要となる。

因果推論に基づき、市場・顧客・競合の状況を徹底的に分析し、それぞれに適応した戦略を立案、施策を確実に実行し、課題を克服していく事で、

「日本産米が世界に広がる可能性は高まる」とは、考えられないだろうか？

7 令和3年産輸出米契約に関して

For Earth, For Life
KUBOTA

令和2年産集荷実績

- 1道16県にて集荷
- 契約数量6,500トﾝ(約10万8千俵)
- 全国10港より香港・シンガポールへの輸出を計画

令和3年産 新規需要米(新市場開拓米穀) 集荷計画

- 集荷目標: 8,000トﾝ(約13万3千俵) 前年比+23%
- 集荷品種: A銘柄(コシカカリ等)3,000トﾝ+B銘柄(多収穫品種)5,000トﾝ
- 集荷契約: 全数 新規需要米契約をお願いします。
- 契約スケジュール: 1次締め切り2021年2月末、最終締め切り2021年6月末
- 玄米集荷(荷姿は別途相談、30Kg米袋+フレコンも対応可能)
- 品質(別途相談可、等級検査基準等はお問い合わせください)
- 集荷条件(価格、集荷場所等は条件調整を個別で対応させて頂きます)
- 新規集荷地域に関しては、県・市町村等の行政との連携をお願いします。
- 新規集荷地域に関しては、Min.300トﾝ(5,000俵)以上を御検討下さい。
- 1県2~3品種でのご提案をお願いします。



細かい契約内容となる為、お声を掛けて頂ければ説明にお伺い致します。
是非、一緒に海外の日本産米市場を拡大して行きましょう！！

7 令和3年産輸出米契約に関して For Earth, For Life Kubota

クボタでは現地精米工場の視察を受け入れています。

- ・日本産米輸出の現状を見て頂く為、クボタでは香港・シンガポール工場のご視察を積極的に受け入れています。
- ・海外現地の市場視察を通して、更なる輸出拡大へのご理解とご支援を賜ります様、重ねてお願い申し上げます。



令和元年 新潟県農業大学校
輸出米カリキュラム シンガポール実習

学生自らが栽培した輸出米を海外現地で精米・販売を体験するカリキュラム
小売店の皆様を含めて多くの方々に支えられて貴重な経験を積んで頂いております。

(本年は残念ながらコロナ渦の影響により実施を見合わせとなりました。)

国内の県政・市町村との連携を強化しています。

- ・輸出米生産地域の行政の皆様とも積極的に協業を行い、農家様が安心して新規需要米を生産できる仕組み作りを行っています。



令和元年 青森県輸出米初荷式
御出席者
東北農政局様、
青森県庁 4部署様、
八戸市様、七戸市様、六戸市様、
東北町様、六ヶ所村様、新郷村様、
JETRO青森貿易情報センター様、
輸出米契約農家様 総勢39名

7 令和3年産輸出米契約に関して

コロナ渦の影響(レストランに対する営業規制など)

<香港>

3月より在宅勤務の奨励、学校休校、レストランには席数規制
(席数半減、間隔1.6m確保)

7月から18時以降のレストラン店内飲食禁止(持ち帰りは可)

9月からレストラン営業規制の一部緩和により、着席規制(4名以内/卓)、
夜間営業規制(24:00から5:00迄の営業禁止)

現在は着席規制(6名以内/卓)と深夜2時迄の営業時間規制となり、
高級店含め外食需要は回復基調にある

12月より感染者増加傾向となり、レストラン規制・学校の休校など、
年末から中国旧正月に向けての最盛期への影響が懸念される。

<シンガポール>

3月より都市封鎖により職場閉鎖や買い物制限など人々の外出が厳しく
制限され、レストランは持ち帰りとデリバリー営業のみ許可

6月中旬から都市封鎖一部緩和により、レストランは席数制限(半減)による
店内飲食が許可

現在も規制継続されているが郊外を中心に外食需要は回復基調にある
(中心部は継続した在宅勤務推奨の影響を受け回復が鈍い)

日本の農業支援ならびに世界の皆さまに安心・安全な日本米を安定的に供給する為、クボタ・グループは総力をあげて日本産米の海外販路の拡大を行ってまいります。色々な願いをする事も多々あろうかとは思われますが、海外における日本産米の需要拡大に向け、変わらぬ御支援・御鞭撻を賜ります様、何卒、宜しくお願い申し上げます。

クボタ輸出米に関する問い合わせ窓口

株式会社クボタ

アグリソリューション推進部 新規事業推進室
米輸出事業推進グループ 高橋・住中・藤岡・神田

TEL: 06-6648-3809

